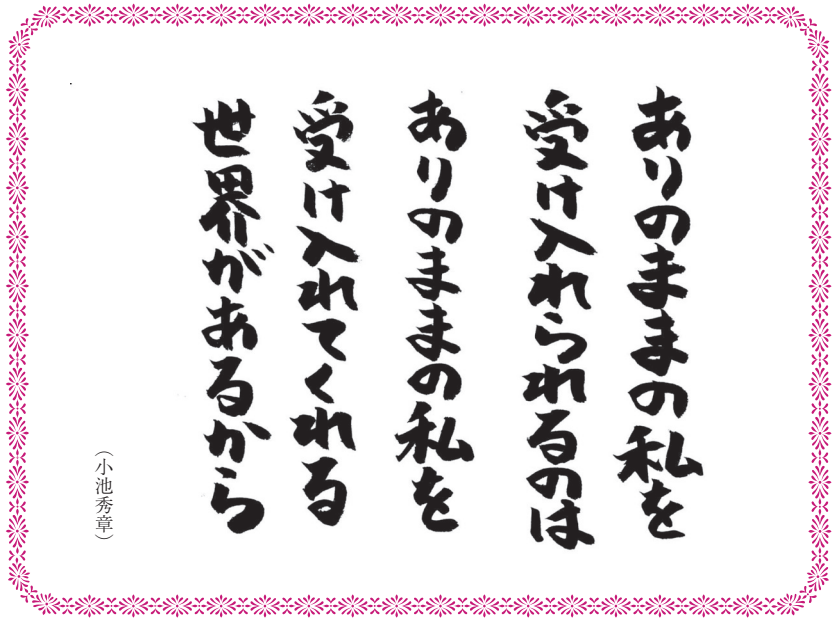
今月のことば



龍谷大学非常勤講師　小池秀章（こいけひであき）

時には、自分で自分の欠点に気づくことも、あります。しかし、その欠点を周りの人に告白した時、「そんなダメな人は、ここにいないで、あっちに行って！」と言われそうだったら、とても自分の欠点を、告白することは出来ません。もっと言えば、自分の欠点を必死に隠し、自分自身でも、その欠点を認めたくなくなるでしょう。

自分の欠点を含めて、そのまま受け入れてくれる世界に出遇って、初めて自分の欠点を認めることが出来るのです。

親鸞聖人は、自分のことを「煩悩具足の凡夫（煩悩だらけの愚かな人間）」であると、言われています。ただし、親鸞聖人が、自分のことを「煩悩具足の凡夫」だと、自分で気づいたのではありません。仏さまの光に照らされて、明らかになった自分の姿が「煩悩具足の凡夫」だったのです。

仏さまの光とは、私たちのありのままの姿を明らかにしてくださる「智慧」であり、具体的には「教えの言葉」として届きます。また、その「智慧」は同時に、ありのままの私たちを受け入れ、正しい方向へと導いてくださる「慈悲」でもあります。その仏さまの「智慧と慈悲」が、私たちの人生を、根底から支えてくださるのです。

合掌